「二つの声」（第３学年）

主　　題：正しいことは自信をもって

内容項目：Ａ－（１）善悪の判断，自律，自由と責任

ね ら い：正しいと判断したことを、自信をもって行おうとする心情を育てる。

**○基本発問　　◎ 中心発問　　□問い返し**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動・発問と予想される子どもの反応 | 指導上の留意点・評価の場面 |
| 導  入 | １　アンケートの結果を知り、「善悪の判断」について問題意識をもつ。  **○なぜ正しいと分かっていてもできなかったのでしょうか。**  【予想される子どもの反応】  ・本当のことを言うと叱られてしまうから。  ・自分が伝える勇気がなかったから。  ・よく考えず、ついついやってしまったから。 | ・アンケートの結果から、正しいことができなかった具体的な場面を想起させることで、その時どのような心の迷いや考えでいたのか振り返ることができるようにする。また、人間の弱さをクラスで共有し、なぜできなかったか、どうすればできたのかなどの問題意識をもてるようにする。  **問題意識をもつ**  ・アンケートの結果から、正しいことができなかった具体的な場面を想起させることで、その時どのような心の迷いや考えでいたのか振り返られるようにする。また、人間の弱さをクラスで共有し、なぜできなかったか、どうすればできたのかなどの問題意識をもてるようにする。 |
| 展  開 | ２　資料を読んで、道徳的価値について考える。  **○二つの声を聞いて、頭を抱え込んだ正二くんは、どんな気持ちだったでしょうか。**  【予想される子どもの反応】  ・何が正しいか分からない。  ・このままでは※二郎くんが叱られてしまう。  ・もう正直には言えない。  ・どうしたらいいかわからない。  ・だめだとは分かっている。  ・でも、もう正直に言うわけにはいかない。  ※正二が割って継ぎ合わせて置いておいた花瓶に手が触れて崩れ、花瓶を割った張本人にされてしまう子ども。  **◎あなたが正二くんだったら、この後どうしますか。**  【正直に話す反応】  ・すぐに学校に戻って話をする。  ・すぐには戻らずに、一度家に帰って、次の日に話をする。  **□どうしてそう思ったの？**  ・二郎くんのせいになってしまうから。  ・自分が悪いことをしたのに、他の人のせいになってしまうから。  **□でも、話をしたら二郎くんに怒られるんじゃない？**  ・怒られても仕方が無い。自分が悪いのだから。  ・うそをつこうとしたのだから仕方が無い。  ・怒られても正直でいたい。  【話さない反応】  ・先生や親から叱られるから、隠してしまう。  ・次郎くんに話すと、けんかになり仲が悪くなってしまうかもしれないから、だまっている。  ・自分のせいになるのが怖い。先生に叱られる。  ・正直に言うべきだとは分かっているが自信がない。  【分からないという反応】  ・正直に話をした方がいいけど、どういうふうに話してよいか分からない。  ・誰かに相談して考えたい。  ・どうすればいいか分からない。  ３　正しいことを行ったときの考えや思いを振り返る。  **○自分が正しいと思うことができた経験はありますか。**  【予想される子どもの反応】  ・学校の帰り道に、寄り道をしようと誘われたときに、帰ろうと言って、みんなで帰ることができた。  ・友達に借りていた本を汚してしまい、何も言わないで返そうと思ったけれど、きちんと話して謝ったこと。許してもらったときは、ほっとした。  **□その時、どんな気持ちでしたか？**  ・友達に言ってよかったなという気持ち。  　・正しいことをした後は、気持ちがいい。  　・晴れやかな気持ち。 | ・登場人物がたくさん出てくるため、子どもが混乱しないように、音読ＣＤを聞かせながら、ぺープサートを使うことで、誰の発言なのか分かりやすくする。  ・ここでは、正二の置かれた状況について確認し理解した上で考えさせる。  ・物語の問題の場面で、「あなたが正二だったらこの後どうするか？」と投影的に問うことで、正二の姿を通して、自己を見つめ、自分との関わりで、心の迷いや葛藤などを考えられるようにする。  **自分との関わり**  ・まずは個人で考えさせてワークシートに記入させてから、グループで話し合いさせる。  **多面的・多角的**  ・「話す」「話さない」「分からない」など、様々な考えや気持ちなどを共有する中で、自分ならどのように対応するかについて、多面的・多角的に考えられるようにする。  ・正直に話す、話さない、分からないなど、正二の様々な心情を想起させたり、二郎の立場を考えさせたりすることで、多面的・多角的に考えさせる。  ●評価の場面  投影的に問い、正二の善悪の判断について自分との関わりで考えられるようにする。また、正しいと判断して行ったときを振り返り、その時の気持ちについて考えられるようにする。  正しいことを行えないときの後ろめたさや、自ら信じることに従って正しいことを行ったときの充実した気持ちについて考えることができているか見取る。  ・正二の行動を考えや正しいことを行ったときの充実した気持ちを考えることを通して、自己の生き方について考えを深められるようにする。  **自己の生き方** |
| 終  末 | ４　教師の説話を聞く。 | ・善悪の判断に迫られた場面や、正しいと判断して行ったときの教師の体験談などを話す。 |